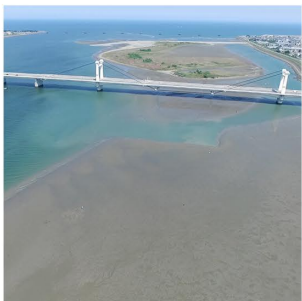




米粒サイズのシオマネキの稚ガニ。（撮影：幸田青滋）吉野川では、シオマネキの生活史を目のあたりにできる

日本最大級の汽水域と河口干潟を誇る吉野川

河口の川幅1300m、県庁所在地のすぐ隣にあって、広大な河口干潟が奇跡的に残されています。シギ・チドリ類など多くの渡り鳥の中継地であり、日本で初めて、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ EAAFP（East Asian - Australasian Flyway Partnership）に参加しています。また、シオマネキはじめ多種多様な貴重種が生息し、ラムサール条約の国際基準を満たす国際的にも重要な湿地です。さらに、子どものたちの環境教育の絶好の場所として、漁業、農業など暮らしを支えています。



面積100haの河口干潟



日本一の生産量を誇るスジアオノリの養殖風景（撮影：高田嘉男）



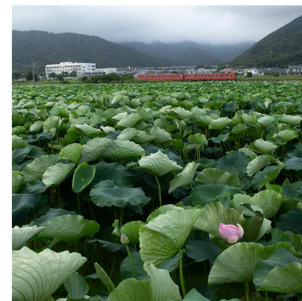
シラスウナギ漁の風景は冬の風物詩（撮影 中濱信一）
シラスウナギ漁は吉野川が健全な生態系が維持されている証拠である。



干潟の自然観察会の光景



絶滅危惧種（Endangered）クロツラヘラサギ [Black-faced Spoonbill] も定期的に飛来している。
（撮影：2018年10月7日：浜井芳明）
絶滅危惧種クロツラヘラサギも定期的に飛来している。



レンコン畑
吉野川はその地形にあわせて、漁業、農業など様々な産業が発達してきた。河口周辺の泥地で産するレンコンは、西日本一の生産量である。



藍・吉野川河口の恵みと伝統
藍は吉野川が生んだ最大の産物である。藍染めの染料である『すくも』は「藍師」によって伝統的な方法でつくられている。

私たちは吉野川河口域のラムサール条約湿地登録をめざします。

とくしま自然観察の会

自然観察会をとおして身近な自然を見直すための活動をしている。
吉野川河口干潟の価値や生物多様性保全の大切さを伝えるために、
自然観察会やエコツアー、様々な市民調査、学校の環境教育の応援など普及啓発活動をしている。